



～ 秋季会員親睦会開催される～



石原信雄会長



平成30年10月12日(金)17時から、秋季会員親睦会が開催されました。70名近い参加者で、とても盛会でした。冒頭、会長のご挨拶があり、その後、中田副会長のご発声による乾杯に続き、おいしいお酒とごちそうをいただきながらとても賑やかに会が進行しました。最後は、中澤副会長の力強い一本締めでお開きになりました。ご出席下さいました会員の皆様、ありがとうございました。

～ 新企画「秋季会員親睦会」に出席して ～

この秋季会員親睦会は120年の歴史を誇る当倶楽部としても新企画、はたしてその結果はどうだろうと思いつつ来てみて驚いた。

大会議室は既に超満員、明るく賑やかな雰囲気になりあふれている。「大成功」と思って嬉しくなったが女性の数が少ないのがいささか気になった。

具体的に云えば日頃から積極的参加が印象的な先輩、後輩の女性会員各一名、それに当方後輩の夫人一人だけ、家内はその方達と楽しそうに話していたが、私同様そのことが気になったようである。

では何故それが気になるか。私の場合は会員委員長として会員増強対策の一環として女性会員参加に関心を抱いていたからであり、家内の方は招かれて行く他の倶楽部、団体等の社交、交流の場ではもっと女性に出会うからである。

会員増強は平成21年7月に当方が会員委員に任命され、次いでその3年後に同委員長に指名されて以来最大の懸案、関心事、幸いにして会長、副会長を始

めとする皆様の御努力により永年減少を続けた会員数は今や増加に転じているが、これが長期的改善傾向の始まりと迄は断言出来ない。様々な追加的措置が望まれること、かつその中でもより積極的な女性会員参加のための施策が重要なこと、一つの大きな鍵となり得ることには変りないであろう。

これを分析的に云えば、会員制倶楽部には会員独自の便宜となる場としての側面と、その配偶者等を含む積極的な交流の場にもなり得るという二つの側面があり、当倶楽部の場合は明治の元老、要人達の場にその端を発する参加、活用の方としての特徴がそのまま今日に及んでいるが、今日の開かれた世界、社会の倶楽部では後者の側面も無視出来ず、そのためにもっと思い切った措置も考えるべきであろうということではないか。

思いつくままに所見を述べたが皆様はどうお考えであろうか。率直なご意見を伺えれば幸せである。

(会員委員長 妹尾正毅)

～ 定例午餐会報告 ～

定例の午餐会は、会員の皆様がどなたでもご参加いただける昼食会です。昭和53年10月から8月を除いて毎月開催され、会員の親睦を深める機会として、多くの会員に親しまれています。毎月15日が定例日(休日の場合は前日)です。白寿、九五の寿、米寿を迎えられた会員のお祝い、特待会員(会員歴30年以上で75才を超えられた方)のお祝い、新入会員の紹介、会員による卓話が行われています。会員の皆様のご参加をお待ちします。

～ 7月午餐会 ～

米寿会員祝賀 谷口 守正 君 辻 誠二 君
特待会員祝賀 加藤 和夫 君 金井 正人 君
新入会員紹介 鈴木 基久 君
樋爪久美子君
(地方会員から在京会員へ変更)



～ 9月午餐会 ～

米寿会員祝賀 若田末人君、廣瀬元夫君
新入会員紹介 大谷剛彦君、傍士朋子君(家族会員)
卓話 高橋厚男君「金の密輸について」

～ 10月午餐会 ～

白寿会員祝賀 武安義光君
特待会員祝賀 上田元彦君
新入会員紹介 青木孝次君、大久保良夫君、金井重彦君、
高橋采子君(家族会員)、原啓一郎君